

平成 27 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 27 年 10 月 30 日（金）

開会：午後 7 時 00 分 閉会：午後 8 時 30 分

場所：八幡新田コミュニティセンター

参加者：男 18 人、女 13 人 計 31 人

町職員：町長、副町長、総務部長、財政課、町民課、政策課

《 懇 談 》

男性

民生委員をさせていただいてまして、住民の皆さんの不安や心配事を聞いていますので、微力ながら参考にしていただければと思います。今日、町長から健康寿命の話聞き、これは町の売りになるのではないかと思いました。東員町にいれば健康で長生きできるという町の売りにしましょう。これを町の事業として立ち上げることで、町民全体に元気が出るのではないかと思います。もう一つ、何か良い仕組みを考えられないかなと思ったのは、定年してから家でごろごろしては、今まで何十年と積み重ねてきたスキルが埋没しているんです。シルバー人材センターはありますが、俺はまだ年寄りじゃないから行きたくないという人もいます。そういう人を掘り起こすような仕組みがあればなあと思います。スキルが高ければ高いほど「シルバー」の名前に抵抗がある人もいます。最後に、今日の資料に人口が減少したときの悪いことだけでなく良いことも書いてありました。少人数になることで本当の意味の豊かさを追求する、と。抽象的だったので、この「本当の意味の豊かさ」をどのように住民の方に PR したらいいのかなと思いました。

町長

私は、健康長寿の町を目指したいなと思っています。例えば、東員町の農業は米が多いのですが、米以外の何か健康になる作物を作っていけないかなと。ふれあい農園はネオポリスの人たちに利用してもらっているんですが、いっぱいなんです。それならば、まだまだ借りられる農地はあるはずなので提供し、何か健康になる物をみんなで一つ決めて作って、それを食べてみんなで健康になるというのもいいのではないかと思います。東員町に行くと、健康なお年寄りがたくさんいるぞと、東員町に住めばこんな風になるぞとなれば、若い人も入ってきてくれるのではないかと思います。そんな健康長寿の町づくりは必要だと思います。

高齢者の人材活用についてですが、私は、シルバー人材センターにはいろいろなことをしてもらっていますが、役割としては限界があると思います。特にスキルの高い人は、シルバー人材センターに登録しても仕事がないんです。人材バンクみたいなものを考えるのもおもしろいかなと考えていました。これは行政だけでできることではないので、そういう思いのある方を確保して、集団になればいいなと思います。これ

は会社でも NPO でもいいと思うんです。とにかくそこで、生きがいと収入を得られるようなものになるといいなと思います。

若い人の中で、都会の喧騒や働くことに疲れて、田舎で働こうという人が増えてきているような気がします。この資料に書かれている本当の意味の豊かさとは、人として豊かさとはなんだろうと。お金があつたり、物があつたりすれば、豊かというわけではないよねと。それをこれからみんなでじっくり追求していこうということではないかなと思います。

男性

私もそういうことなのではないかと思います。それと健康寿命の高い人が増えたのは昨日今日のことでないかと思います。おそらくこの地域の住民の積み重ねによるものかなとうれしく思います。それを今度は、町長の口から発信してもらえればなと思います。それからもう一つ、埋没してしまうといいところは見えないんです。ぜひいろいろな種をまいてもらいたい。町が種をまいて、いろいろな人がいろいろな部署で、各役割を持って動くことでおもしろく、元気も出るかなと思いますので、いかに賛同者を増やすかだと思います。

また人材バンクについてですが、一律いくらのものだとどうしても枠の中でしか動けない。そうではなくて、スキルが高ければ報酬も当然高くて当たり前じゃないですか。

町長

それはそうだと思います。なかなか自分の持っているスキルと、シルバー人材センターの報酬が合わないという人もいます。マッチングしないのは、ストレスになるので、合うようなものを、我々が主体になるわけにはいきませんが、一緒になってそういうものを作っていってもらえるようなきっかけを作っていけたらと思います。

男性

私も、よそから来た人にお金を落としていってもらう方法を考えてので、何かの時にでも考えていただきたいと思います。北勢地域ではこんな立派な陸上競技場は、どこも持っていません。今度国体がある時に、東員町はサッカーの会場に決まっていますよね。そんな時、選手だけでなく役員も必ずついでにきます。いまさら遅い話だとは思いますが、ホテルとか温泉とかがあれば、お金の落ちる場にもなったかなと思います。せっかく人が集まるのに、お客さんは、桑名とか菰野にみんな取られていくんです。いまさらホテルや温泉を建てろというのは無理な話かと思いますが。

今は各地区でやっていますが、昔は元気な老人を、福祉センターなどに集めているいろんなことをしていました。私は若葉の会というところに加入しています、そこでボランティアをさせてもらっているんですが、元気な老人たちが集まっています。こんなことを言ったら笑われるかもしれませんが、洋裁とか和裁とかでいろいろな人形などを作る人はたくさんいると思います。その人たちが作った物を、中部公園の販売所に置いてもらうのはどうかと思います。私も今度食事のときにでも声掛けをさせてもらおうと思うのですが、町の方でも考えていただいて、そんなことができないかなと思っています。

町長

やはりそういった小さなことから考えていかななくては、と思っています。

男性

無理かなとは思っているのですが、北勢線西桑名駅と桑名駅の接続ができれば、こちらにお客さんが来てもらえる。大事なことではないかなと思います。私はついこの間、和歌山県の高野山に大阪難波経由で行きました。今はもう、地下から乗り換えができるようになってはいるんですが、橋本からは高野山に行くまで単線で走っているんです。そこに、林間田園都市という駅があります。周りは田んぼや畑や山ばかりなのですが、けっこう人が利用するんです。もっとも、大阪まで1~2時間の通勤圏なので、たくさん乗るのは当たり前なのかもしれませんが。じゃあ東員町はどうなのかなという気がしました。私も良く出かけるもので、北勢線が桑名駅に連絡してくれていたら楽だなと思いますし、ここで何かいろいろ作ってもよそから来るのに車でしか来れない、電車はあっても乗り換えが大変では、難しいんじゃないかなと思います。それと、もし特産品でもできれば、電車の中に広告を張れば、ああここにも行きたいと思える。北勢線も時間短縮のために、北大社の駅をなくしましたよね。北大社の人は不便なんです。いなべ市との兼ね合いもあるかと思いますが、東員駅一駅でも便利にしてもらったらいいなと思います。

町長

北勢線の接続については、いなべ市と東員町、桑名市そして三岐鉄道との約束で本当は平成25年までに乗り入れをするということになっていました。東員町もいなべ市もやるべきことは全てやったのに、桑名市だけがしなかったため、実現しなかったんです。西桑名駅を桑名駅と接続するというのは、国体のある平成33年までには、繋ぐという約束を桑名市はしています。以前の約束より遅れますが、そのころまでには、乗り入れしていると思います。あと5年ほどすれば、ホームを渡れば近鉄やJRに乗換えができるようになると思っています。東員駅についてですが、駅の周りには何もない。鉄道の役割からすれば、人が住んでいるから鉄道が成り立つのであって、周りに何もないのはおかしい。実は、あの周りは農振農用地なんです。今、駅前の開発を考えていまして、もし特産品を作ったら、駅で売ったりして、いわゆる買い物弱者と呼ばれる人が住んでいる土地を売って、駅前に住むような町にしたいと思っています。そこには、銀行やスーパーがあつたり、日用品なら間に合うような町を駅前に作りたい。そうすると、駅と役場の間が埋まるんです。そうすると、歩いて暮らせるような小さな町、コンパクトシティになると思うんです。そうすれば、当然、北勢線に乗る人も増えるし、駅のポテンシャルも上がると思うんです。ただ、なかなか国も県も許可を出してくれないんです。やはり我々が考えるまちづくりに反対されていては、本当の意味での地方創生なんてありえません。ですから、東員駅を駅として成り立つようにしたいなと思っています。

男性

もし北勢線が桑名駅に乗り入れれば、通勤する人も増えて、人口も増えると思いま

すよ。また、ダイヤも合わせるようにしてもらえば便利だと思います。

男性 いろいろと東員町を活性化するような策はあると思うんですが、今首相が日本の出生率を1.8%にすると言ってますよね。でも東員町は今、1.3%くらいですよ。こういうことについて町としては何か考えてみえるんですか。

町長 頭の痛いところで、東員町は三重県平均より出生率が低いんです。ただ、出生率は低いのに子どもの数は増えているんです。これは、神田と稲部地区に若い人の転入が増えてきているからなんです。出生率についてはなかなか難しいところです。

男性 手当てとか制度はどんなものがありますか。例えば、2人目や3人目を産むと手当てがあるとか。東員町はほかの市町と比べてどうですか。

町長 現金支給などについては行っていません。ですが、5歳児の保育料は無料にしています。これは、三重県で東員町だけです。そういった制度の中で子育て支援をしており、間違いなく東員町の子育て政策は、三重県で一番だと思います。そういうことをやっているためか、若い人に入ってきてもらっています。40歳以下の若い転入者は、平成23年度で580人ほど、平成24年度で575人、平成25年度で643人、平成26年度で634人です。島根県のある学者さんの理論によりますと、その地域の人口の1%の若い人が入ってくると、その地域は維持できるそうです。東員町は2.5%くらい毎年入ってきてもらっているんです。今、出て行く人と入ってくる人の数が拮抗しているんですが、出て行く人は単身で、入ってくる人は家族を連れて、家を買って、そこに定着してもらう人という傾向になっています。今のところいい傾向かなと思っています。問題は、なかなか子どもを産んでもらう方が少ないことかなと思います。

男性 それはいろいろな問題があると思いますが、一つ言えるのは、子どもを産みたい人はたくさん見えるんですよ。しかし、1人目や2人目なら家族が見てくれてもそれ以降はみてもらえない、子どもが小さい時、特に小学校に上がるまでの間、働いていると自分が育児に専念できない、そんな状況があると思います。

私はボランティア活動とかいろいろやってまして、子どもを産みたい、産んでもいいんだけど仕事を辞めないといけないという話を聞きます。東員町は、託児制度とかが行き届いていてとてもいいんだけど、うまくいかないと聞いたことがあります。

町長 多子世帯でいきますと、幼稚園保育料が2人目は2分の1と、人数が増えていくと減っていくんです。

男性 3人目が生まれたら100万円あげるとかいうわけにはいきませんか。町では年間どのくらい生まれるんですかね、200人くらいですか。それくらいならいいんじゃない

ですか。まずは子どもを増やさないと。

町長 今政策課で出生率 1.3 を 1.8 にするとがんばっています。

政策課長 子育て支援については、現金支給ではなくて、幼保の一体化や放課後児童対策などで支援していこうという政策が功を奏しておりまして、子どもを産んだ若い世帯の転入が非常に多いです。ご存知のように、出生率は低いんですが、よそで子どもを産んで転入してきてもらっている状態が続いています。これはこれで伸ばしつつ、出生の希望を叶えるということにも取り組んでいきたいと思いますので、よろしく願いします。

男性 今子どもの話が出ましたが、これは全国的な問題ですよ。これは私の考えで間違っているかもしれませんが、子どもに力を入れたってね、政治家には関係ないんですよ。選挙権がないからって、子育てに力を入れるのは 20 年遅かったと思いますよ。子どもが育つには時間がかかって、すぐに金儲けできるわけじゃないんだから。政治家はどうしても選挙権のあるほうに力を入れるんですよ。副町長どうですか。

副町長 そうですね、おっしゃるとおり、今の選挙の実態は、「シルバー民主主義」と言われているんです。民主主義なんですけど、選挙の投票率でいうとお年寄りの率が高い。そうすると政治家はその人たちに向けた政策を打つ。子育ての政策についてはそれほど重視しなくなる。ですが、選挙権が 18 歳からになりますので、そういう意味では若い人たちの思いが反映できるように若干はなるのかなと思います。現実には言われたように、高齢者の人も増え、投票率も高いので、そういう風になっていることは確かだと思っています。

町長 私は国の子育てっていうのは、子どもにお金をかけなさ過ぎと思うんです。以前、首相が 3 歳からの保育料を無料にすると発言した時は期待したんです。本当は東員町も無料にしたかったけど、財政的に厳しかった。本来なら子育てはもっと国がちゃんと手当てするべきだと思います。財政的には厳しいですが、町民の皆さんにも理解してもらって、子どもにはけっこうお金をかけていると思います。子どもは宝ですから、町の子どもたちはしっかり育てていきたいと思っています。

男性 町長が今言われた費用は、歳出の何費に入るんですか。

財政課長 いろいろですが、民生費や教育費が最も多いです。

男性 民生費も教育費も 5 年前に比べてかなり増えていますよね。民生費は 6 億、教育費は 2 億くらい増えている。そんないいことをしているなら、広報とういんで財政状況

をお知らせするときに、具体的に何に使っていますよとかもっと書いてもらおうと、皆さんの熱意が町民に伝わると思いますよ。

財政課長

今の町長が就任してから、まちしると一いんという、予算の内容や次の事業の内容などを記載し、全て広告収入で発行した冊子を作りました。もっと分かりやすい内容のものをという指示を町長から頂いていますので、来年は図などを含めて進めていきたいと思っています。

男性

写真を入れたりして、広報とういんをもう少しやわらかい感じにしてほしいなあ。あんまりかたいとみんな見ようとしなから。